

## 令和7年度 第1回 伊賀市多文化共生推進プラン委員会 議事概要

日 時：令和7年6月23日(月) 午前10時00分～12時00分

場 所：伊賀市役所本庁5階 501会議室

出席者：オチャンテ委員、和田委員、井上委員、里中委員、上出委員、福岡委員、吹上委員、船見委員、山本委員、八幡委員、信田委員、キタ委員、TON委員、桃地委員

内 容：

1. あいさつ

2. 報告事項【資料No.1】

○資料No.1の説明（事務局）

3. 議事【資料No.2-1】【資料No.2-2】

○資料No.2-1、2-2の説明（事務局）

委員長 事務局から議事（1）①②について説明をいただきました。

事務局からの説明を受けて、みなさんの意見とかご質問があればお答えさせていただきたいと思います。今、事務局から資料2-1、2-2の中で分からなかったこととか、もう少し詳しく聞きたいこととかありましたらどうぞ。

委 員 昨年も掲載いただいているんですが、教育委員会さんの方で日本語ボランティアさんっていうのが何回か名前に出てくるんですけど、ごめんなさい。把握してなくて、どういった形で採用がされて、どういった形で支援をされているのか、どんなボランティア支援されているのかを、採用と立場と支援状況と、わかる範囲で教えていただければと思います。

事務局 細かいところまでは分かりません。

委 員 日本語ボランティアって何人くらいいるのかも分かりませんし。

委 員 日本語指導コーディネーターとして学校を回っていますが、今聞いて、そもそもそんな人いるのか全然知らないし、多分いたら知ってるはずなんで、行くから。来てくれってなるので。まず募集があったことも知らなくて、募集があったとすると当然研修をするから、多分話がくるんだろうなと思っているんですが。そもそも計画にあったんだみたいな感じで、これ。

委 員 去年もボランティアさんが足りないみたいなことを書いていただいていたので、私の認識不足だったんだなと思ったんですけど。あまり、存在を知らなかったし、補助してる人はいらっしゃるのは知っていますが、その人たちのことなのかな。でもボランティアじゃないですね。お金いただいて、もらってるから、ボランティアではない。有償ボランティア。

委 員 多分、いろんな形で支援員さん入ってるじゃないですか、特別支援などに。その中

で、もちろん外国につながる子どもたちもそういう支援が必要な場合も多いから、重複してそういうのはしてると思うんだけど、多分この文言だと、新たに日本語指導ができる方を募って、養成して派遣しているのかなと読めたので、知らないよってなったので。これはでも、事業主体は教育委員会さんかな。じゃないとわかんないよね。私も雇われてる身だから分からない。という話で、以上です。

委員長 このような質問があったので、また、教育委員会に確認していただけたら。また、分かりましたら教えてください。  
ありがとうございました。その他いかがでしょうか。  
その他気づいたこととか、もしここでお答えできないことでしたら、また確認していただくという形になります、いかがでしょうか。

委員 これは質問というか、実際どうなのかなって気になっているのが、伊賀市の広報紙のカタログポケット。私も何回か見たんですけど、とても見にくくてですね、文字を拡大するとはみ出ちゃって、なんか全体が読めないとかあるんですけど、せっかく翻訳版があるんで、皆さん活用いただいているのかなあと。紙のベースのものは結構皆さんね、読んでもらってると思うんですけど。例えば、読みにくいから読んでいる人がほとんどいないんだったら、改善をしていただくとか、或いはもう少しホームページ自体の、今、自動翻訳ですよ。それを、何とか自動翻訳に適した元原稿かな。イラストだと翻訳されないのテキストで入っていると、そういう、もう1歩をしていただくと、今日本語ある程度わかる外国ルーツの方も多いけどやっぱり難しいことがわからないので、もう1歩、工夫がなされているのか、その使用頻度がどうなのかっていうのもまたちょっと今日は多分答えていただけないと思うので、また聞いていただけたらありがたいです。

委員長 ありがとうございます。  
使われているかどうかということと確認ということと、見にくいということもあるんで、そもそも皆さん、見たことありますか。

委員 拡大するとはみ出ちゃう。

委員長 見たことありますか。カタログポケット。ネットで見る広報誌。  
日本語の広報誌を自動翻訳したような、皆さん、印刷されたものは見たことあるかもしれないですね。伊賀市のいろんな情報が載っているですよ。それを携帯でも。

委員 それは違う。伊賀市の広報そのものを見れるんですね。  
字が小さくて、実際それが知らないし、見にくいです。私、たまに見るんですけど、ごめんなさい、読みにくい。  
なので、やっていただいていることが有効かどうか、効果的かどうかというの、そろそろ検証する必要がある。次の、今年計画するに当たっても必要かなと思っています。

事務局 すいません。今の反応やと委員の皆さん、そもそもそれ自体を知らないということですね。

委員長 存在を知らないということですね。もしかしたら普及するにおいて、キーパーソンとなる方たちからとか、SNSとかで流したりとか、まだちょっと普及は出来てない。

委員 見にくいので、1回見てほしい。

委員長 そこも合わせてですね。

そもそもまだ知らない方が多いということ。

ありがとうございます。

でもこれは確かにね、翻訳されたものがトピックだけで全部載せられないので、これだと全部見れる。伊賀市のいろんな情報がある。それを合わせてみていくと、そうすれば実際使いやすくなっていくかどうか。

まず、普及して見やすくするようにすることが必要なということですね。

その他、皆さん気づいた点とかありますか。

委員 先ほどの状況とかを見せていただいて、伊賀市が少子高齢化で大変人口の減少が右肩下がりの中で、今のところは、増えている状況なので何とか来ていただいているっていうことにありがたいなっていうふうに思わせていただきました。そしてまたその皆さんと、私たちっていうかもともと伊賀市にいるものとかが、どうやって、多文化共生、ともに生きやすくなるかなっていうのを、私は郡部に住んでる人間として、どういうことが大事かなっていうのを、この会議に何回か出ささせていただく中で、考えさせていただいてます。その中で、この言葉はやっぱり大事だと思うんです。私自身が、日本語しかわからない人間ですので、そういう専門の方々に、教えていただく機会とか、増やしていただくのはとても重要だと思いますし、先ほど、学校でも、大規模校がどうしても拠点校になるけれども、そこへオンラインでっていうのもあったので、学びたくても、なかなか、みずから、もちろんそうやって授業についていただくとともに、自分自身がもうちょっと学びたいと思ってる子どもさんに、そういう機会が増えていくっていうのはとても、いいことやなと思わせていただきました。そしてまた先ほど、大企業とか、企業の中で、中心になっていただく、その代表で来ていただくところにも、例えば、実習生さんのところが、エクセディさんが中心になってオンラインでって書いてくれてあったのを見せていただきました。自分自身が、ちょっと長くなって悪いですけど、正規の仕事を引き上げたときに、郡部でちょっとバイトをしたときに、20人もいないそういう小さな郡部のところで働いたときに、ベトナムから子どもさんを置いてきてくれる方が4人いらっしゃったんです。だから割合としては、多かったです。私言葉はちゃんとしゃべれないけど、お昼休み、お弁当を一緒にいただく中で、徐々に、私もちょっと覚えたり、またその働きに来てくださってる方のお話を伺ったり、子どもさんのスマホの画面を見せていただいたりっていうことで、やっぱり言葉がしゃべれなくても、交わっていくことによって、何か少しずつ、その方にとっても私にとってもよかったなと思える職場だったんです。だから、その方たちもひよっとしたらもっと学びたいのに、学ぶ機会がその会社内だけだったかもしれ

ない。私もちょっと短い期間だったんですけど、だから、そういうオンラインとか、なんかそういうのが、小さな職場でも、見られるような環境があったらいいなあと思いました。そして、私自身、できるかなと思うのは、やっぱり交わることってとても大事と思って、国際交流協会さんが前も申しあげましたが、ダンスとか音楽とかお料理とかで、交わらせていただく中で、私はちょっとスポーツにもかかわらしてもらっているので、今、この場では外国の方中心に考えますけど、スポーツでポッチャってパラリンピックでやってるスポーツ。伊賀市でみんなができる。しかもルールが簡単なんですね。だから、例えば、地域や、高齢者サロンとかでも、このぐらいのスペースがあったら、本格的な試合じゃなかったら、すぐにできて、一体感を高齢者の方も、もちろん障がいをお持ちの方も、そして言葉が通じなくても、一体感とか、白いジャックボールっていうのにねらうだけなので、何か割と子どもさんから老若男女かかわらず、できるものですので、できたら、もちろんスポーツ振興課の方もそのチラシとか、いろいろ多言語とかにしてくれてるんだけど、そういう、言葉の習得は大事と思いつつ、触れ合ったり、みんなでそんな仲良くしましようじゃなくても、自然とね、何か、できる、覚えちゃって、とてもいいなと思って。今地域でも活動してるんです。そんなときに、例えば、各企業さんとか、小さな地域でも、スポーツ振興課さんに依頼し、ちょっとコマースルですけど、依頼してもらったら、無料で、私らはスポーツ推進員が出向いて、メンバーが 50 人スポーツ推進委員がおりますので、行って、無料でって言うと失礼かもしれへんけど、やっぱりあんまりみんな負担になるとね、長続きしないと思うので、派遣申請っていうのをしてもらったら、それ 2 年前から、さしてもらってるんですね。だからそういうふうに難しいこと要らなかつたり、私らも地域のスポーツイベントでも、体験講座って言って、何かイベントとかしてますよね。これぐらいのスペースだったら、そこでもシートの、ものがあるのでそこでちょっと触れ合ったり、また、健康づくりにも、親睦にも繋がるものなので、また、その辺なかなかコマースル気する機会がありませんので、この、交流っていう部分で、長くなりましたけど。意見として言わせていただきました。また読んでいただければありがたいです。以上です。

委員長

ありがとうございます。

この後地域での交流、地域でできる交流の取り組みについてお話しする機会もありますのでその時また詳しく教えていただければなと思っています。

ではその他皆さん気づいた点がありましたら。

委員

さっきのアンケート結果のところで、この一番最後のページ、差別を受けたところがある人の割合が 2024 年は目標値が 10%。下がってくれるといいなっていうところが、34%とかなり上がっていると。達成率は 29%で、これは何か要因っていうか、ちょっと極端に下がった、悪化してるっていう感じがあるんで何か思い当たることありましたら教えてください。

委員長

ありがとうございます。最後の資料 2-1 の展開方向 4 の外国人住民も活躍する地

域づくりのところで、差別を受けたことがある人の割合というところで。

事務局からなにかありますか。

実績値が超えてきているということで、増えてるけど、実際この伊賀市で差別を3年以内に受けた割合が2023年から2024年に大きく増えたという点ですね。いかがでしょうか。

事務局

事務局からすいません。

前回詳しい資料提出させていただきまして、内容の方は確認していただいたのかなと思います。実際に今年増えたのか、アンケート調査の回答した人の中に、たくさん差別を受けた方が見えたということもあるのかなと思いますけども、その体験が実際に毎年聞く対象者が変わっていく中で、その中で、差別を経験された方が、昨年度より多い状況だったと。中身については、前回確認されて、いただいたものでいろいろな差別の内容があったのかなと。昨年より倍近く差別を経験された方が増えたということでございます。

委員長

ありがとうございます。

実際差別を受けた経験がある人は、増えましたね。今年の2024年のデータでは、少し差別を受けた経験の人たちが増えたんですけど、実際皆様、伊賀市に長い方たちで日本語をできる方だと思うんですけど、ちょっと嫌な体験とかってというのが感じたことはこの3年以内には、ありますでしょうか。嫌な体験をしたかどうか。

委員

仕事の関係でたまに電話を受けたときに伊賀市じゃなくて、伊賀市じゃない国内の方から問い合わせがあるんですけど、たまにですけど、発音がちょっと違うって分かるから、「外国の方だと思うんですけど、そしたら他の日本のスタッフに代わってもらえますか」というのが、たまにあります。「外国の人なんですよね」と、「出身どこですか」と聞かれて「日本語上手ですね」「頑張ってください」と言われることもあって、そういう方もいるんですけど。そういうときはショックです。わからないときは他のスタッフに代わってもらうんですけど、私ができる範囲では私も答えられますよって、自分は思うんです。

委員

わたしは自分ではないけどフィリピン人の話聞いたらまだまだあります。特に会社のこととか、その言葉の違いかな。多分、特に研修生は、その言葉の理解とか、わからへんかったらすぐ日本人キレるとか。そんなわからへんかったら、こっち来る前に日本語勉強しようとか。で、先月も1人フィリピン人すごい精神的にやられて、フィリピンに帰って。服もひっぱたりってということもあったから、日本人優しくない情報が広がるから。その会社では今でも、まだ、その方がなんでクビじゃない。たまたまその方は社員の方やから、だからきついのはきついらくて、本当に今でもまだその話聞いてて。違う会社にもあってパワハラとか、実はうちの今の行っているところも、日本人からパワハラがあって、私も黙るタイプじゃないから施設長に言うて。話解決して、その日本人変わらへんかったら、本社に異動することです。うちのところはすぐね、私みたいに。他の会社はまだ、偉いさんに黙ることしか選択できなくて、結局フィリピンに帰ることも、ビザ延長しない方も。だから、その

辺がその会社はどうすればいいかなあと思ってた。現実の話、私どこのこと言ったらあかんけど、私たち外国人なかったら日本どうなるんかって言う。

委員長

来てもらえるようにならないといけないからね。

委員

そうそう。他の研修生名張にも来てて、私前の研修生なんぼでもまたもう1回、こういうことができます。でも今言ってたフィリピン人たちはもう日本行きたくない、戻りたくないって言ってる外国人、フィリピン人も結構います。

事務局

分かりました。

委員

私は特に差別かどうかわからないんですけど、感じるのは、日本人たちが早口とか専門の言葉を言うと、こっちがちょっとわからなくて、「もう1回」って言ってもあんまりいい顔しない人たちが多いですね。買い物とか、どこに行っても、「もう1回お願いします」って言っても、親切な人もいるけど、大きな声で何回も同じことを言って、いや聞こえないではなくって、ゆっくり日本語を教えて欲しいっていう感じかな。そういうことが多いですね。

委員長

ありがとうございました。

委員

皆さん、こんにちは。お願いします。

私が専門学校に入ったときは、ほとんど周りは日本人の方でした。だから、結構遊んだり、一緒に生活をする時間が長いんで、日本の文化に慣れました。差別とか聞いたことないけど、現在はホテルサービスの仕事をしています。たまにお客様のサービスの方いるけど、おかしい言葉がちょっと出るけど、でもあまり気にしない。ホテルでは、みんなやさしい。外国人だから、日本語でわからないところある、漢字とかわからない。みんなやさしい日本語でちゃんと教えてくれています。だから、私は日本が一番いいかなと思います。ずっと住んでいます。以上です。

委員長

貴重なご意見、ご体験をありがとうございます。

では、他にありますか。

委員

確か、一番最初にアンケート調査したときって、市の窓口に来る方だったりとか、関係のある人ばかりにとっていて、それを指摘させてもらったことがあるんですね。そうすると、サービスを受けた人たちにアンケートを頼むと、悪い結果ってでないじゃないですか。ここでお世話になったんやから、アンケートのときに、差別があるとか、窓口対応悪いとか書かないではないですか。それってあんまりいい結果じゃないんじゃないですかっていうのを、何か、最初のころにそういう意見を言わせてもらった気がします。で、それを受けて次の年には、もうそうではなくて、広く一般にネットだったりとか、QRコードで入っていくっていうふうな形にしたはずですよ。ということは、23年のこの数字は低いというのは、とり方の違いで、もしかしたら24年の方が本当の数字じゃないかなと。だから、増えたというよりは、取る対象が変わるということで、やっぱりそうやって変わってくるので、これから先は同じような形で取っていくというのが大事なかと、いうふうに思います。のと、やっぱり外国人が増えてきているのを見ていると、伊賀日本語の会で日本語を教えているんですけども。来ている研修生とかの方々の日

本語レベルは、低くなっています。国で勉強してきてって言っているけれども、日本の会社側が思っているレベルに達していない人が結構います。はっきり言って。多分、最初の頃来ている人達って、やっぱりある程度の日本語力を持ってからしか来れないって言うので、ちゃんと勉強してきてた人たち。それはコロナ前ですね。コロナ後に来る人たちは、コロナの間に、コロナ前にN4とかを取ってて、そのあとコロナ明けてから来るときは、2年ぐらいのブランクがあって、日本語勉強してないんですよ。だから、N4とってきましたって言って、日本語の会にきてくれるんですけども、N3を勉強したいです。て言っているけれども、これはN4ちゃんと受かったかもわからないけれども、忘れてる。レベル的にはかなり低くなっているんで、その辺で、会社側の、先ほど言ってくれたように、会社が日本語できてるやろうと思っているレベルじゃない人たちがいっぱい来ているっていうのが、日本語を教えてて今すごく実感しています。会社側からも、試験を受けさせたいので、って言われても、いや、試験を受けるレベルじゃないよねっていうふうな、ひらがなカタカナ読めるけど漢字が読めないっていう状況の人が、いっぱい増えているんですよ。なので、その辺のところ、会社側から、さっき言ってくれたように、会社でできひんやないかと言われるっていうふうなことを、もう、会社の社長さんとか想像しているのでは、違う日本語レベルの人がたくさんきているっていうのはコロナ明けて感じてます。なので、元に戻りますけどもこの数字増えたのは本当に、受けている人たち、実際の数字になったんじゃないかなというふうに感じてます。以上です。

委員長  
委員

ありがとうございます。一言何かありましたら。  
弊社に今年初めてじゃないんですけど、2名の外国人の方に来ていただいたんです。その方はご本人は日本語もしゃべれて、すごいんですけど、家族思いの方で、今弊社来ていただいているんですけど、学校の欠席日数は結構多かったです。面接をさせてもらったときに、体調崩したりしたのって言ったら、そうじゃないと、お母さんが市役所に行くときに通訳が欲しくて、自分が家族の中で一番日本語ができる。だから自分が一緒に行って欲しいって言われることが多くて、ごきょうだいもいるけど、きょうだいは日本語が得意じゃなくて自分が一番得意だから、頼りにされてるのは自分で実はお父さんもそんなに日本語ができないって話があって、そうすると、会社に入ったときにどうなのかなあと思ったんですけど、それは順番に回すっていう話をしてくれて、今のところ会社にも来ていただいていますし、たまに休んでもらうことも全然問題ないんですけど。有給がない間に休むと給与が引かれたりとかして、どうしてもその生活の給与が減ってしまうとか、そういうことがあってご本人には何の問題もなく頑張ってくれているのに、評価としては下がっちゃったりするのが、気の毒というか。なので、今の学生さんはそういう学ぶ機会が結構たくさんあって、自分の意思で学べることがあるんですけどご家族とかご両親とか、おじいちゃんおばあちゃんとか、もう少し気軽に学べる機会があればお子さんとかもうちよっとなんか日本にも溶け込んでいけるのかなって

うのをちょっとと思って、どうしてあげたらいいんだろうっていうのを今、会社でも考えてるような状況です。すいません。ありがとうございます。

委員長

ありがとうございました。

先ほどのコメントがありましたけど、事務局からありますか。

事務局

アンケートの対象は2023年度と2024年度は特に変えてないんですけども、答えてくれた方が2023年度、国際交流フェスタで答えてくれた方がかなり多かったです。100人ぐらい答えてくれたんですけども、2024年度は30人ぐらいでしたので、その差が結構あるのかなあと、こちらでは考えています。

事務局

フェスタに来て答えてくれたらその状況の中です、差別を受けた意見っていうのがその状況で拾えたのかなと。この2024年の数字が委員さんがおっしゃっていただいたように、本当に今の現状の数字であるんだろうなど。1年前は、フェスタで多くこたえていただいた、そのまつりの中です、差別のことを書かれたか書かれてないか。そこで、その差ができたのかなという風に思います。

委員

窓口はその前ですね。

事務局

23年より前になります。

委員長

はい。ありがとうございます。どんどん外国人住民が増えているので委員もおっしゃっていたように日本語力が乏しいことで差別を感じやすいようになっているのではないかと。わたしたちも続けて意識して関わっていかないといけないかなと思います。やさしい日本語とか市役所ではよくできてるけれど、企業の課題がまだあるので、取り組んでいかないといけないと思います。

その他大丈夫でしょうか。皆さん。

それでは、時間の関係もあるので他に無いようでしたら、議事(1)①の令和6年度事業実績と②の令和7年度事業計画については、資料のとおりとしてよろしいでしょうか。

事務局

\*\*\*異議なし\*\*\*

委員

それでは、議事(2)①について、事務局から説明をお願いします。

#### ○資料No.3の説明(事務局)

委員長

ありがとうございます。

第2期プランの策定スケジュールについて、事務局から説明をいただきました。委員の皆様方から、ご意見ご質問等はございませんか。

今回は9月です。

ご意見が無いようでしたら、第2期のプラン策定に向けてこのスケジュールで進めることとします。よろしくをお願いします。

それでは、続きまして、事務局から議事(3)について説明をお願いします。

#### ○意見・情報交換(事務局)

委員

伝丸の和田です。

チラシをお取りいただきますが、2つありまして1つはやさしい日本語ステップアップ講座というのを、伊賀市の多文化共生課さんからご依頼いただきまして、開催させていただきます。こちらについてはやさしい日本語は、今までこういうものによって広めてるのは伊賀市さんだいぶ頑張っていたいて、そういう認識でやったらいいんだなあとと思って、取り組んでいらっしゃる方或いは店舗の方とかも結構してくださってるんですが、ただ実際、やさしい日本語になったものを読むと、例えば、ジェネリックのお薬はとかいうふうに書いてあって、日本語的にやさしい日本語にしてもらったつもりなだけで、日本人にも余計にわからないっていうか、ひらがながずらずらっと並んでいて、余計読みにくい。外国の人にも途切れがないのでわからない。ていうような残念な結果になっていることが時々あります。なので、やさしい日本語の概念はわかったとして、もう少し練習が必要だなということで、今回企画をいたしました。初回はやさしい日本語の必要性だったり、或いは、やさしい日本語ができると広がるよねっていうお話が中心になりますが、2回3回4回と、話し言葉そして書き言葉そして、実際にしゃべってみようというパターンでやらせていただきます。一応4回或いは3回出席していただいた方には、やさしい日本語話しますっていうバッチをですね、もう作成いたしました。今日持ってくればよかったですね。それをプレゼントいたします。例えばイベントとか何かのときにそれをつけていただいて、活用していただくというイメージで考えております。なのでぜひ皆様の会社さんとか団体さんで、もしこのチラシ欲しいわっていうことがありましたら、一言声掛けていただきましたら、すぐにお送りしますし、お届けもいたします。例えば観光協会さんとか、周りの日本人の方にもそういった、声かけていただけたらありがたいです。すいません。もう1つありまして国際交流お手伝いしますというものがあります。これは今まで私たち、伊賀市さんや伝丸のようなNPOが国際交流のイベントを企画することはよくあります。ただ、それだと、1発で終わるっていうか、続かないんですよ。また企画をして提案すれば、イベントには来てくれるけど、そうではなくて、地域の活動に外国の方を交えるっていうことを1回やってみましょう。例えば、いきいきサロンっていうのが、社協さんもいろいろお手伝いいただいてたくさん地域に伊賀市で、200か300、活動があるんですよ。うちの母も参加させてもらってるんですけど、そういったいきいきサロンに近所の外国の人来てるのかな。でも呼びたいけど急に呼ぶってできないよね。だからそれを私たちがお手伝いをして1度来てもらおうじゃないかみたいなことを企画できないか。それがいきいきサロンでもいいし、例えば後ろに例あるんですけど。フットサルのチームがあって、参加して欲しいなっていうのもいいかなと。どんなパターンでもいいです。例えば外国の人が、私のブラジルのこの手芸がとってもすてきだから日本人の人にも教えたいって言ったら、そういうのを一緒にやるサロンを作りましょうと。そのきっかけを作りましょうと

というような、交流のお手伝いをしますという企画です。もし、地域とか、皆様の何か近くでそういうものがあればまたぜひお声掛けをお願いします。これは、できれば、地域の中で継続していただくイベントをお手伝いすることなので、対象が伊賀市全部というよりは、伊賀市全部でもいいんですけどそのある地域、例えば、ブラジル手芸をやる会を開きますみたいなところも手伝いをしたいと思って、継続できればありがたい。もっと密に交流すると、お互いが「なんやおんなじ人間やん」、「悲しいも嬉しいの一緒やな」っていうのがわかれば、地域がもっと優しくなるんじゃないかな、きつい言葉もちょっと和らぐんじゃないかなと期待をして、いっぺんにはいきませんがね。ということです。やさしい日本語の方は7月1日から受け付けになっています。国際交流の方はもうチラシをもらっていたからいつでも受け付けいたしますのでよろしくをお願いします。お時間ありがとうございます。

委員長 ありがとうございます。

やさしい日本語は、企業の方とかも。

委員 そうですね。

できてらっしゃる方もいるんですけど、やろうと思っても実際残念なケースが時々あるので、すごく気持ちがあるのにそれが伝わっていないと思うので、その気持ちをスキルに変えて伝えたい。

委員長 ありがとうございます。

続きまして伊賀市国際交流協会でも、今年度、伊賀市地域交流支援事業を活用した事業を計画していただいています但今日は西岡委員は欠席ですので事務局から説明してもらえますか。

事務局 それでは、西岡委員に代わりまして伊賀市国際交流協会の取組みをご紹介します。伊賀市地域交流支援事業の協働促進支援コースを活用した事業としまして、国際交流協会では、自治協単位で2地区選定し、その地区の住民、日本人も外国人の方も含めて対象に「やさしい日本語」の3回連続講座を実施します。2地区はすでに決定してしまっていて、久米地区・西柘植地区で実施します。

それぞれ、「やさしい日本語」の導入編、みんなで防災編、みんなで交流編の3回の講座です。

国際交流協会では、これまでも「やさしい日本語」を推進してきましたが、活用という面ではあまり進んでいない現状があるため、地域の中で「やさしい日本語」をツールにコミュニケーションを増やして、必要な情報の共有し、相互理解につなげるきっかけとなるようこの講座を計画してくれています。

内容としましては、まず、導入編は、「やさしい日本語」の基礎を学ぶ講座となります。「やさしい日本語」とはどういうものかの説明をはじめ、「やさしい日本語」への言い換えの練習などを行います。「やさしい日本語」を使った話し言葉の練習として、ゴミ出しの際の説明の仕方をグループで話し合ってもらったり、書き言葉の練習として、実際に地域で使った回覧文書をやさしい日本語に書き変えてもら

うグループワークを行います。

みんなで防災編では、避難場所や避難のための準備、避難所でのルールなどを外国人住民と一緒に確認し、避難所のシミュレーションなど、その地域に応じた講座を実施します。

そして、みんなで交流編は、地域住民同士が交流を深めることを目的として、やさしい日本語を使ってレクリエーションを行うなど、交流の機会を作り、そのお手伝いをするものとなっています。

この3回の講座を通して、外国人住民を含めた地域住民が、気軽にコミュニケーションをとって、今後の防災訓練やイベントなどの地域活動も一緒に行うことができる、きっかけになればと計画をしてくれています。以上です。

委員長

ありがとうございました。伝丸さんと伊賀市国際交流協会からの取り組みのご紹介がありました。委員の皆様の見聞きながら感じたのは、地域での交流そしてもちろん企業とか、学校とかだと思んですけど、交流ができてないから、こういったちょっとした言葉のミスコミュニケーションが起こったりするのではないかと思ったりしてるのと、あと、外国人自身が日本語ができない部分で、自信を失ったりするようないところもあってですね。小さくなったりとかしてるかなと思います。自分がちゃんといえるから、嫌な体験を、自分の声を上げることができたわけですね、委員の中でもあまりそんなことが感じないとか、あったとしても周りがみんな優しくしてくださるかなとかね、いうことがあって、そういうのができる方とできない方、言えないような現状の中で、自信がない、または、自分たちの権利がわからない人が中にはいるのではないかなと思ったりしてるので、各個人の皆さん、住民の皆さんと自分たちの権利、自分の環境を高めるような活動をしながら、会社、企業、学校とかで関わっているすべての人たちの理解も、例えば、大きな声を話すっていうことではなく、やさしい日本語を使っていくということ、こういった違いついていうのはおそらく地域の方たちもわからないから、こういったことをしてるのではないかなと思っておりまして。そこは課題かなと思ったりしています。

では皆さんからせつかくですね少し時間があるので、皆さんのご意見を。他の委員からもですね、地域の交流に関してとか、気づいたこととか、気づいた点でもいいので、それぞれの立場で感じられることや、地域の行事など、外国人住民との声がありましたら感想でももちろん結構ですので、お話をさせていただければと思います。

委員

はい。ここには挙げていないんですけども、伊賀日本語の会でも独自の取り組みを、やさしい日本語でやっています。ぜひですね、7月12日の土曜日に、日本語の会は5日の土曜日でクラスが終わりますので、次の土曜日に7時からなんですけれどもやさしい日本語カフェという形で、日本語の会に来てる学習者と先生が、いつものクラスでもなくって、その枠を超えてゲームしたりとか、あとグループに分かれて、日本語で話そうというのをやります。それから、12月13日の土曜日に

も、このときには今から計画中なんですけれども、やさしい日本語教師でうちの伊賀日本語の会の代表の船見のツテで、やさしい日本語落語をやっている人を呼ぼうかなと企画をしています。やさしい日本語落語と日本語で話そうというやさしい日本語カフェを開催する予定です。いろんなところで、関わる人たちをふやしていくというのも私たちも考えています。それで、なんかちょっとやってみたいなと思う方いらっしゃったら、どんどん小さいのでいいと思うんですよ。それが増えていくっていうのがとても大事なあとだと思います。そこで知り合っていくということで、そうなんやっていうふうなのとかいろんなことを感じていてくださるかなあと。で、先ほど〇〇委員の言っていたそこに就職した人を私は知っているんですけども、そこで関わってくれることで、こういうふうな、家の手伝いに変ななんやっていうこととか気づいてくださったことっていうすごく大きいかなあと。思って、仕事行って休まずに行ってるからよかったと思ったんですけども。まだまだやっぱり私たちが通訳をいろいろやっているのは、学校を子どもたちが休まなくていいようにっていうのが一番の目標だったんですけども、まだまだそこが、つついっつも子どもを、通訳にする親たち。いや、学校休んだらあかんって言うんだけど、そこを親の都合で子どもを休ませるっていうのがあって、子どもも、学校行くより、学校行かなくていいほうがいから、学校行くって言わないで、親が通訳来てって言うたら、できない、難しい内容の通訳だったりとかでも、例えば病院だったりとかでも行く。親はまだちょっと安心っていうだけで、つれていくっていうまだまだあるんやっていうのを、感じます。そうすると、なかなか子どもたちの学力って上がらないし、そこがまだまだ続いているっていうのを先ほどの〇〇委員の話聞いて感じましたので、まだまだ変えていかないと、そうじゃなくても、親は、子どもに頼らなくても生きていけるようになってもらわなあかんっていうのを感じました。はい。以上です。

委員長  
委員

ありがとうございます。

社協の方では、外国人防災リーダーの養成とかいろんな機会を通じて、外国人の方と交流させていただいてるんですけど、去年の1月ごろから試行的に、市内の1つの高校で、校内カフェという取り組みを始めております。外国人の子どもさんもたくさん来ておられまして、先日〇〇委員さんにも来ていただきまして、交流などもさせていただいて本当に私たちも安心しているんですが、学校や、社協、またボランティアさんの方と一緒に、子どもさんとどんどん繋がりを持つことによって実は親御さんがいろんな生活状況でお困りになられてるという方もたくさんいらっしゃる中で、子どもさんの学業や、栄養状態とかにも影響が出ているということがわかってきております。そういう中で、朝ご飯、昼ご飯を食べずに来て、学校で倒れて救急車を呼ぶというような事態とかも、実際に発生しているということ、やはりいろいろ厳しい状況がもう全体におよんでるということで、何らかの形で子どもに直接アプローチをする機会がないかということで、月に2回、ちょっとお腹を満たすものを持っていったりとかですね、先日はおにぎりカフェということで、炊

飯器をたくさん持って、59名の参加がありました。外国人の方もおられます。そういう子どもさんに直接関わる大人がいるということ、相談できる人がいるんやということもしていただいて、そういう繋がりを持っているということが現状です。高校に行ける方が100%ということで進学率のところ安心したところですけども、やはり卒業というところまできちんと見届ける。また卒業してから後も企業さんに関わりのあるところですけども、しっかりそういった支援を繋いでいくということがとても大切だなというふうに思っております。あとですね、先日、6月15日に市の総合計画と地域福祉計画のタウンミーティングがございまして、その中で多文化共生のワークショップのグループファシリティをさせていただいたんですけども、結構皆さん本当に外国人住民の方との交流の機会を求めていらっしゃる方がたくさんいらっしゃって、例えば農業を従事している方が、外国人の方も結構農業に興味があるんじゃないかとか、実際外国人防災リーダーの中にも技能実習生をしていて、自分とこの一軒家だったので畑があるんですけども、その畑で作ったものを近所の人にお配りしたりとかしてですね、そういった何気ない日常の繋がりっていうのがすごく地域との助け合いとか、お互い様の関係を作ることによって繋がっていて、そういった、農業とか新しいことにチャレンジしてみたいという方を応援するとか、またねとか、こういった交流の機会とかも、すごくいいなというふうに思ったりしています。また外国人防災リーダーの中で、自治会のないエリアに住んでいる方もいらっしゃって、何なら自分も自治会の何かの役割を担うということも、できなくもないかなというふうに思っている方もいらっしゃって、でも結構日本の自治会はいろいろルールがあったり、マイルールがあって、それこそ親とか親戚の死亡の後とかもいろんな手続きとかしてても、違うエリアとマイルールとか、それぞれの地域のルールがあるので、非常にわかりにくくなっているんですが。そういった自治会のわかりやすい引き継ぎができるような、簡単なルールなどあれば、会に参画する機会があったり、または主体的にその役員になっていただくとか、そういったこともチャレンジできるような地域であればいいなというふうに思ったりしているところです。ありがとうございます。以上でございます。

委員 私今までの会議には出ささせていただいておりませんでしたので今日は初めて参加させていただきました。いろいろなこういう取り組みが進めていただいているということも改めてわかりましたし、よかったなというふうに思っています。先ほど拠点校という言葉も出たんですが今はもう伊賀市では、よっぽど小規模の学校でない限りはほとんどの学校に外国籍の生徒さんがいるっていうような状況かなというふうに認識をしております。私どもの緑ヶ丘中学校は、全校生徒が今500名なんですけれども、そのうち52名が、外国に繋がりのある生徒さんがいらっしゃるということで10%ぐらいの生徒が外国に繋がりのある生徒であるということになります。そして先ほどガイドのことにも触れていただきましたけれども初期適応教室の方に行って、限られた学習しか積んでいない状態でも中学校の授業に入

っていかなくはないという実態がある中で、このオンラインの学習は大変有効になっておりまして、初期適だけではまだまだちょっと力が、なかなか厳しいなあというところで、オンラインに引き続き、個別の方で受けて、そして教室に戻っていくというようなそれだけでも十分ではないんですけども、オンラインをうまく使うことでこの系統化された学習をさせていただいてというのは、本当に無償で受けさしていただけてましてありがたいなあという。思っております。また日本に滞在する期間が短い生徒さん、中学校から入ってきてくれた生徒さんについては、高校の方への進学を希望されるということが、最近ではもう高校の方について言わない生徒の方が本当にいないぐらい。やはり私たち最後は、高校への進学を学力保障していくということ、1つ大きな目標にしていかなきゃいけないという中で、本当にどのように、この短時間で日本語の習得も本当になかなかまならない中で学力をつけていくのかってところは大きな課題としていつも、重い課題として感じているところでございます。そういった中でも、ご家庭の方で先ほど〇〇委員の方からもありましたけれども通訳で休まなければいけないとか、またその進学に向けた、子どもうちの方ももちろんご協力をいただくわけなんですけれども。どのようにして学力をつけていくということでも、課題はまだまだ山積みかなというふうに感じているところでございます。ちょっと思いつくままにお話さしていただきましたけど、そういった実態でございます。以上です。

委員長  
委員

ありがとうございます。

失礼します。日頃特にどういった外国に繋がりのある子どもたちと関わってらかっていたら本当にそれはなくて私は東高倉に住んでおりまして外国に繋がりのあるお子さんが結構いらっしゃるんです。何かご相談があれば、私も関わってらくなるんですけれども、1住民として日頃心がけているのは、子どもたちには挨拶をしっかりと自分からしていこうと思って、ごみ出しに行ったときにちょうど中学生の子崇広中学校に通うのに駅まで歩いてるんですね。朝は結構つまらない顔してるんですけど、おはようございますって言うとちゃんと返してくれるので、私も嬉しいんですけど、帰り電車から降りて、帰ってくる姿見たらすごく嬉しそうに顔して、本当に見た目も外国籍のお子さんやなって思うんですけど、嬉しそうにみんなで楽しそうに帰ってくる姿を見て、今日、学校で楽しかったのかなと思いつつながら1住民として見守ってるっていうような状態なんですけれども。先日私は知り合いのお子さんがある中で、何かしゃべってたときにそのお子さんが、ベトナムから来た友達がねっていうんですよね。最初全然しゃべれなかったのに、もう日本語いっぱいしゃべるんだよって友達と一緒に遊んでるとか言って、聞かしてもらってすごくうれしかったんです。子どもたちと一緒に交わってる中で仲良く生活していける、それが土台になって、これから日本で勉強して、それからまた仕事について、本当にグローバルな社会って確立していけたらいいなって、子どものそういう発言、感想からうれしい思いしたんです。先ほど〇〇委員さんが、地域でスポーツなど、一緒にとかいろんな活動されてるようなんですけれども。やはりそう

いう輪が広がっていく。先ほどもカフェとかいろんな聞かせてもらいましたけれども、少しずつの積み重ねっていうのが、いいのかなというふうに聞かせていただきました。ありがとうございました。

委員

いろいろお話しの中で出てきたので、伊賀市の日本語指導コーディネーターを兼ねてるので、さっきボランティアっていう存在がどうのこうのと言いましたけど、いくつか思いつくことで言うと、すぐじゃなくてもいいので、さっき初期適応指導教室になかなかね、全員通えないとか、地元の学校で頑張る子どもも増えてるんだけど、私実は過去2年間、隣の滋賀県の甲賀市の日本語指導校にいたんです。甲賀市さんは実は、人口規模よく似てますけど、外国人住民からの要望で、実は初期適応指導教室を2ヶ所にふやしたんです。最初郊外に作ったのを、ちょうど市内の市役所から一番近い小学校に、去年から設置を決めて、市内2ヶ所で通える範囲をふやしたってことですね、物理的にすぐは難しくても、初期適応指導教室ができてからも15年ぐらいだと思うんですが、東小学校1ヶ所で動かしたこともないし、そろそろ2ヶ所目を考えても、常設でなくてもいいと思うんで、ニーズがあるときに設置できるような形もないのかな。或いはオンラインで中継するとかです。それこそスタッフをきちんと募集して、これからやっぱり、地域が日本語教育を保障するってことは国も言ってるわけだから、いずれ伊賀市の日本語教育のことをやんなきゃいけないんだらうと。ちゃんと講義として、その先駆けとして、子どもの日本語教育が一番1丁目1番地かなとは思ってます。あと、子どもでいうと、多分人口統計とすると、下に行くほど、人口ピラミッドが広いと思うんですね。おそらくこれから5年6年とか10年っていうスパンで見ると、小学1年生に入ってくる国籍で言うとおそらくベトナム人1位になるんじゃないかなと。南米の方がそんなに増えてはいないし、これももう名古屋も顕著に出てるわけで、全国的に言われてることで、もっと、多文化、多国籍化して行って、おそらくインドネシア増えると思うんです。昨日聞いた話なんですけど、技能実習制度で、今までベトナムとかミャンマーに行ってた人、実は手引き始めてます。どこ行ってるかっていうと今インドネシアです。インドネシアブームが起きてて、インドネシアから大量に人数を今入れないとそこのビジネス回らない。そうすると、ますます、東南アジアにルーツを持つ子どもたちが増えていく中で、1つヒントとすると。子育てのための、まず手を打つというか、日本で子どもを育てるということが、こういうことが大切なんだっていう、なんか子育てサークルじゃないけど、子どもを授かった時点で子どもを育てるということは、どういうことが大切なんですっていう何か物を渡せたらいいかな。多分、発達の段階に応じてどっか、検診とか病院とかがキーワードになってくるんでしょうけど。実は勉強をしていくってことはこういうことだって大切で言語ってこういうふうに習得が行われるんだってことを、その発達段階で、親世代にちゃんと伝えていくことが大事かなと。或いはその雇われてる企業とかがそういうのは何か、おぼろげながらというか、できたらいいかなあとは思ってます。それは多分、さっき言われた2期以降のところ、反映で

きたらいいかなと個人的には思いました。以上でございます。

委員長  
委員

ありがとうございます。

たくさん話を聞かせていただいて、なかなか、会社としても考え方ございまして、個人としても気づかされたことたくさんありまして、公募委員の皆さんから聞かせていただいた仕事上、私生活上の話なんかは特に、私もどちらかというと、フラットではいようと思っております。サービス業、宿泊業、いろんな業種の中で海外の方おられます。もちろん日本人の方もおられます。でも、基本的にはサービスを受ける。宿泊としてのサービスを受ける。その企業が、その人たちを、そのポジションで働いてもらってるってことなんで、基本的には企業の部分には、大きな、もしそういうふうなマイナスの部分があれば責任はあるのかなというふうに聞かしてもらってます。私自身も、会社の中で、技能実習生をたくさん受け入れてるところと、海外の、期間適用の方、無期の方、社員の方、色々おられます。その中で私は技能実習の方が、特化してやらしてもらってる部分がありますんで、ここに呼んでいただいているものと思ってます。その中で、〇〇委員さんもおっしゃられた日本語の講習の話の中で技能実習生に関しては、特に3年間っていう限られた時間ですけど、彼らが、仕事上、プライベート上、日本で働きやすい、生活しやすい環境づくりのために、やりました。それも変化してきているのが、一番最初は対面です。コロナに入ってオンラインになりました。で、どうしてもオンラインって言っても、先生との加減がありますんで、どうしても本人たちと先生の都合がつかなければ、せっかくの機会があったとしてもでれない。今回は、JITCOという国際協力人材機構の中で、eラーニングがあったんです。eラーニングは、どちらかというとその決められた動画と、自分が好きなタイミングで好きな場所で見れる。1人2000円ぐらいかな。となると、結果的にはコスト的な負担も少なくなりました。彼らとしても、利便性があがったんじゃないかなと思います。あとは本人たち次第なんですけど、私、入国のときには、一言は言います彼らに対しての動機付け。それと、それに対して合格した際の、返金とか、ちょっとニンジンぶら下げたりもしてます。でも結果的には彼ら次第。全員が全員受けることはない。ていうのが実態です。だからその辺は、彼らは3年しかないです。その3年後自分がどうするかっていうのを考えてるかどうか、また日本に来て働きたい。なのか、もう国に戻って、他の国へまた行くってところ。うちベトナムとフィリピンなんですけど、ベトナムは、グループ企業です。フィリピンは、監理団体を通して来ていただいています。フィリピンの子たちの方が出稼ぎするっていう国っていう聞かされてもらって、彼の方がどちらかという、マインドが高い気がしましたし、次に繋がる、それをタダでさせてもらえるっていうチャンスをつかもうとしているのはそういう子たちの方が多いです。ていうのがまだ日本語の話。

会社としては、重々いろんなところで言われてますけども、法令遵守、ハラスメント、人権尊重はもう当たり前と思ってますんで、これは粛々とするだけかなと思います。あと、それを、先ほどから働いてる中でいろんなことを言われてちょっと

相談したけどもっていうところで、会社としても相談窓口を作ってます。これは誰もが受けられるところです。技能実習生なんかも、相談窓口というと監理団体なんかは、その相談に乗ってあげなければならない窓口だと思います。でも、企業さんに受入企業からしたら、お客さんなんでなかなかうまいこといかない部分もあるのかな。そういう意味でも相談窓口はあるんで、それを知ってもらおうというのも1つ大きなものだと思います。で、会社にも、その相談窓口あって、日本人であろうが外国籍であろうが皆さんが受け付けられる、最終的には、会社としても働きやすい環境づくりというものをやってる、取り組んでるところがあります。あと、今、伊賀にいる、海外の方のコミュニティの話で、先月だったかなベトナムの子が、帰国する機会はタイミングがありまして、了解をしたときに、多少は日本語がしゃべれるんですけどその子教えてくれたんですが、要はいろんな写真を見せてくれたんです。伊賀での生活。そしたら、何でこんな、いろんなところへ行けんのみんなで行ってんの。いや、違うと。伊賀に仲が良い子ができたと車を持ってると、ということはそういうコミュニティが、もういろんな国であるんじゃないかなあというところは思ったんで、いろんなその、発信する何て言うかな。一生懸命我々がこんなん社内と言う、チラシを配ってくる。伊賀市さんが、ホームページ公開するけども、最終的には、知らない。知っても興味がない。見ない。これやったら一切届かんで、そういうふうなものを使っていく。使わしてもらおうというのもありなんじゃないかなあというところですのでこれから、この先第二期ということで入ってくるかと思えますけども。これは社内もそうなんですけどもデジタルツールの活用。これはもう、この先絶対だなと思えます。若い子たちが、増えていく。そしたら、間違いなくマストで持っていると思えます。それは使っていく、広げていくためのものやと思えます。すいません長くなります。以上です。

委員長           ありがとうございます。すいません、時間が迫っては来てるんですけど、せっかく公募委員の方がいらっしゃるんで、何かこういったイベントがあればいいなあっていうような、伊賀市でこういったイベントとかみんな交流できるようなことがあれば、ぜひ、お答えいただきたいです。お願いします。

委員               今まで地域の行事イベントに参加したことがあります。これまでに、国際交流フェスタとか、防災リーダーとかの活動に参加しました。地域の人と交流して文化とか防災活動について学ぶことができました。これからも、地域の人とも仲良くなれました。イベントも参加したいです。勉強することはできます。みんな助けあえる行事も興味があります。外国人でも、気軽に参加できるように、ご案内とか、説明をやさしい日本語とか、英語とか、ベトナム語、中国語でも適用して欲しいと思います。時間や場所の両方でもわかりやすいものをもらえると嬉しいかなと思って。以上です。

委員長           ありがとうございます。広報ですね。工夫も必要ということだと思います。ありがとうございます。

委員               時間も迫ってるし、先ほど先走ってお伝えしたこともあるので。あと、要望的に

2つだけです。1つはこれ（やさしい日本語ステップアップ講座）。今年からしてくれるということで、ただ日曜日の昼間だといろんなイベントとかあるので、これも、もちろんその場で、グループワークとかするっていう大事さはとっても理解しているつもりですが、そういうのがまたQRコードで、この方の講演のいろいろそういう権利とかもあるから難しいところもあると思いますけど、何かの機会に過ぎたやつを見られる機会があったら、自分の肥やしになるというか、4回連続日曜日の昼間っていう、なかなか言い訳がましいですが、見る機会をまた作っていただくと、私以外にも興味ある子はいますので、という要望と、あと、知ることプラス、来てくださった皆さん、俳句づくりとかまだまだそんな難しいけどそういう忍者とかもできるから、そういうところに興味があったらその伊賀市のよさというか、特徴を知ってもらう機会があったら親しんでもらえる機会にもなるのかなってちょっとその文化、芸術っていうもので、次の段階ではそういうところもある、紹介していくためになりたいなって、ちょっと思わせてもらいました。以上です。

委員長       ありがとうございます。オンデマンド学習とか web からも見れるようになればいいなということことですね。

                  お願いします。

委員       私も外国人リーダー、防災のに参加しまして、小田町にも市民センターで火災が起きたときに、ビニール袋でお米とかご飯とか作ったことがあります。でも、さっき言ってたカタログポケットを私も前にはアプリで見ましたが、見にくくてわかりにくくて、伊賀市だけのアプリがあったらいいなと思って、私は他にボランティア参加したいんですけど、どこに探してどこに聞けばいいかわからなくて、防災リーダーの教室参加してそのあとはもう何も連絡をなくて、どうしたらいいかわからなくて、ネット、携帯で検索ができるようなものがあったらいいなあと考えてます。

委員長       ありがとうございます。もう少しボランティアに参加したいけれど、問い合わせはどこなのかってわかりにくっていう意見がありますね。

委員       ありがとうございます。私は31年間ずっと伊賀に住んでいろいろ参加したことあるし、正直な話言うたらな、もう伊賀の外国人たち本当に、贅沢って思ってた。こんなね機会あって、ずっとね、菊山さんと和田さんとロサさんも、ずっと私たちの面倒見て本当に、すごくありがたくと思いますけど、他の、もう本当に例えば、横浜の友達は、こんなことないって言われて、だから本当にすごく贅沢とあってて何したいか他のフィリピン人にもちょっとちらっと聞いててあとなに欲しいとか、国際交流フェスタ1年に1回してるじゃないですか。それだったらまあ、2回あったらありがたいなあて言うて。贅沢のことと思うけど、他のフィリピン人の意見も聞いてたから、トライすることだけ。夏と冬と2回だったらとか。他の外国人はちょっと時間がね合わないとか、トライすることだけ。

委員長       毎年、国際交流フェスタが行われてるので多分外国人住民の中には、10月って

いうのもあるので、もう少しあればもっと交流が、そこで自然には生まれるのではないかということですね。

委員 すいません。今回の会議の機会に皆さんに連絡事項です。多分皆さんご存じなんですけど、この会議以外の話ですね、今旧庁舎、もともとの旧市役所で今工事しててこういうことに関してのお知らせです。だんじり会館で地産市場、買い物のところは、営業は7月18日までです。で、7月19日以降は旧庁舎のところに、移していきますので、伊賀市のお土産は全部そこで販売しております。18日が最後で、19日にオープンするので、新しい名前は、「伊賀百貨」っていう名前です。この旧庁舎の中に、7月19日にまずは伊賀百貨がオープンして、21日はホテルも開業っていう予定なんですけど、ホテルの名前「泊船」っていうホテルなんですけど、あとはカフェとか、図書館を全部あそこに移しておりますので、とりあえず今4施設ですね。観光協会は、事務所はそのままだんじり会館の地場産の中に残しますが、地場産のと観光案内のところは全部旧庁舎のところに移していきます。今回、スタッフもたくさん募集して、スタッフの中にインバウンドの人も呼ぶために、英語やベトナム語ができるスタッフは結構います。この会議で、お知らせなんですけど、また皆さん、よろしくお願いします。

ありがとうございました。これからの施策や第2期プランに繋がる貴重な意見交換の場になったのではないかなと思います。

では、3の議事については以上といたします。

#### 4. その他

委員長 続いて、4.その他に移ります。

委員から何かありますか。

最後に事務局から何かありますか。

事務局 本年度の多文化共生事業の取組として、先ほどご確認いただいたとおり各事業主体で進めていくことといたしますので、よろしくお願いします。なお、次回の委員会の開催についてですが、先ほどのスケジュールの説明でも申し上げましたが、本年9月頃に開催したいと思います。事項書には、9月中旬頃としていますが、アンケート案作成の進捗から9月中旬以後の開催になってしまう可能性もあります。なるべく早い段階でお知らせさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

委員長 このことについて、ご質問等がありましたらご発言ください。

それでは、そのほか事務局から何かございますか。

副委員長 無いようでしたら、これで本日の議事は終了とさせていただきます。委員の皆様には、議事の円滑な進行に御協力いただきましてありがとうございました。それでは、事務局にお戻しします。

委員長      たいへんありがとうございました。  
委員の皆様には、長時間にわたりいろいろな意見交換やご協議いただきありがとうございました。  
これをもちまして、2025年度第1回伊賀市多文化共生推進プラン委員会を閉会とさせていただきます。どうも、ありがとうございました。

一 同      ありがとうございました。